

第6章

自然・歴史・文化と人が交わり 元気に輝くまちづくり

観光・文化

1節 自然・歴史・文化等の多様な魅力を活かした観光の振興を推進します

1. 観光客を呼び込むための環境の整備
2. 地域の魅力の発信
3. 広域的な観光の推進

2節 白山文化・白山ブランドの確立と魅力を発信します

1. 品格と文化が感じられるまちの形成
2. 自然や歴史のブランド力の向上

3節 国内外の多様な交流と賑わいを推進します

1. 国内・国際交流の推進と多文化共生の推進

6-1-1 観光客を呼び込むための環境の整備

現状・課題

- 本市には、国立公園に指定されている白山をはじめ、白山比咩神社や白峰重要伝統的建造物群保存地区の街並み、数多くの温泉など、魅力的な観光地に加え、特産品や伝統工芸なども数多くあります。
これらの地域資源を活用した観光誘客のため、白山市観光連盟が中心となり、市内の観光資源の情報を収集し、誘客に向けた効果的な情報を発信する機能の充実を図ることが必要です。
- 本市が有する地域資源にさらなる磨きをかけ、積極的なシティプロモーションの推進による観光振興を図るためには、観光に関わる人材の育成と確保が欠かせません。
このため、地域の魅力を伝える人材や観光をプロデュースする担い手の育成が求められます。
- 多くの観光客を呼び込み、地域の活性化を図るためには、道の駅やスキー場、温泉施設などの交流拠点となる観光施設やその周辺の整備・充実を図るとともに、交通の拠点から離れたところにある観光地へ観光客を適切に誘導するなど、観光拠点の充実やネットワーク化を推進することが求められます。

基本的方向

1. プラットホーム機能の充実

市内の観光資源を調査・整理し、効果的に情報を発信する機能（プラットフォーム機能）を持つ白山市観光連盟と協働して、着地型旅行商品の開発・販売などを行うほか、観光情報センターを運営し、観光客の誘客や市内の特産品を利用した観光地の活性化を図ります。

2. 人材の育成と確保

観光客が楽しく市内の観光地を観光できるよう、案内の知識や技術を持った観光ガイドの育成を図るほか、観光地の環境整備に必要な観光プロデューサーの育成に努めます。

3. 観光拠点の充実

誘客力の向上に向け、本市が有するスキー場や温泉施設、海水浴場などの観光拠点について、利用状況やニーズを勘案しながら整備・充実を図るとともに、白山総合車両所等を活用した、ものづくりの心にふれ、学び、体験する「産業観光」のまちづくりに取り組みます。

また、白山国立公園、白山白川郷ホワイトロード、白峰重要伝統的建造物群保存地区、白山比咩神社などの観光拠点についても周辺の整備や活用を進めるとともに、観光客を適切に誘導するため、道の駅での情報発信や観光サインの計画的な設置のほか、観光拠点までの交通の確保や、地域内の移動を補完する手段としてレンタサイクルなどの充実に努め、まちなか観光の推進を図ります。

さらに、自然や農林水産業、伝統芸能等の活性化に向け、体験型・交流型の要素を取り入れた旅行形態の充実を図ります。



白峰重要伝統的建造物群保存地区

施策の展開

基本的方向	施策の概要（★印は重点項目）	実施時期		実施主体
		前期	後期	
1. プラットホーム機能の充実	★ 観光連盟の機能の充実	→	→	観光連盟
	観光情報センターの運営	→	→	市、観光連盟
2. 人材の育成と確保	★ 観光ガイドの育成	→	→	市、観光連盟
	観光プロデューサーの育成	→	→	市、観光連盟
3. 観光拠点の充実	★ 産業観光の拠点充実	→	→	市、国、県、観光連盟、事業者
	★ 地域の特性の活用	→	→	市、観光連盟、市民
	滞在型施設の充実	→	→	市、市民
	道の駅の活用	→	→	市、市民
	観光サインの計画的設置	→	→	市
	観光拠点への交通の確保	→	→	市
	観光施設の整備	→	→	市
	★ スキー場施設の整備	→	→	市、指定管理者
温泉施設の整備	→	→	市、事業者	

市民協働に向けて

- 観光拠点の魅力を観光客に伝える観光ガイドや、観光まちづくりを進める地域や地域間の連携を図る観光プロデューサーの育成・活用を支援します。
- 観光拠点を持つ地域住民と協働し、地域の魅力向上を図るとともに、地元企業との連携により観光拠点のPR、市内特産品の販売等を行います。

目標指標

指 標	単位	計画策定時	目標値		備 考
		(年度)	R3	R8	
観光連盟ホームページへのアクセス数	件/年	91,718 (H27)	103,000	300,000	
観光情報センターの利用者数	人/年	5,225 (H27)	5,400	18,000	
スキー場利用者数	人/年	142,910 (H25-27平均)	159,000	155,000	
レンタサイクル利用者数	人/年	2,673 (R元)	2,700	2,800	



6-1-2 地域の魅力の発信

現状・課題

■ 白山については、開山1300年迎え、全国に向けたさらなる魅力発信や知名度の向上が必要です。

また、本市は、北陸新幹線と在来線の2種類の総合車両所が立地する全国で唯一の都市であるほか、北陸鉄道の車両工場も立地しています。

この特性を活かして「鉄道のまち」づくりを進めるとともに、観光資源としての活用が求められています。

■ 本市には日本三名山の一つである白山をはじめ、スキー場や温泉、白山比咩神社などの神社仏閣、白峰重要伝統的建造物群保存地区といった観光拠点のほか、G1白山（白山菊酒）やふぐの卵巣の糠漬をはじめとした発酵食品、祭りなどの地域の伝統・文化等、多くの観光資源が存在しています。

市民にとっては身近な自然環境や風景であっても、来訪者にとっては新鮮で魅力的なものに感じられることもあります。

今後、新しい観光資源の掘り起しやさらなる魅力向上を図るとともに、北陸新幹線敦賀開業・大阪延伸や中部縦貫自動車道全線開通による3大都市圏からの誘客を図るため、近隣自治体と連携した観光商品の開発が求められます。

■ 本市では、美川のおかえり祭り、鶴来のほうらい祭り、鳥越の一向一揆まつり、白峰の雪だるままつりなど、地域の伝統的な祭りや個性豊かなイベントがあり、毎年多くの来訪者で賑わいを見せています。

今後は、交流人口の拡大を図るため、これら誘客性の高い祭りやイベントへの支援、PR促進が必要です。

基本的方向

1. 白山・鉄道などの魅力の発信

「いいとこ白山」を合言葉として、本市のシンボルである白山の魅力と「鉄道のまち」としての魅力在全国に発信するため、ウォーキングや登山を推奨するとともに、体験型のイベント等を実施します。

2. 観光商品の開発と発信

観光拠点の魅力を高めるため、宿泊を含む旅行商品や地元食材、特産品など観光客に向けた商品の販売に向けて、行政、観光連盟、事業者が連携し、新たな特産品や既存商品の活用方法の検討を行います。

また、近隣自治体の観光地と連携した観光商品の開発促進により、相乗効果を引き出し、本市及び周辺地域の誘客の促進を図ります。

さらに、今般の社会情勢を鑑み、修学旅行生受け入れのための教育旅行プログラムの企画、マイクロツーリズムを意識した着地型旅行商品やルートなどの提案と発信を行います。

3. 地域の祭り・イベントの支援

観光資源としての伝統的祭りや本市をPRするための地域イベント等を支援し、交流人口拡大による地域の活性化を図ります。



白山総合車両所一般公開

施策の展開

基本的方向	施策の概要（★印は重点項目）	実施時期		実施主体
		前期	後期	
1. 白山・鉄道などの魅力の発信	★ 白山の魅力の発信	→	→	市
	★ 鉄道のまちの発信	→	→	市、運行事業者
2. 観光商品の開発と発信	★ 着地型旅行商品の開発	→	→	観光連盟
	近隣自治体と連携した観光商品の開発	→	→	市、観光連盟
	★ 広域圏での観光商品の開発	→	→	市、観光連盟
	多様なツアーメニューの提案	→	→	市、観光連盟
	特産品の市内外への情報発信	→	→	市、観光連盟
	発酵食品等食の魅力の市内外への情報発信	→	→	市、観光連盟
3. 地域の祭り・イベントの支援	観光誘客性の高い祭りへの支援	→	→	市、市民、観光連盟
	観光誘客性の高いイベントへの支援	→	→	市、市民、観光連盟

市民協働に向けて

- J R 西日本金沢総合車両所松任本所及び白山総合車両所、北陸鉄道車両工場のイベントへ各種団体が参画できるよう運行事業者へ働きかけます。
- 地域住民が観光素材として、魅力の向上を図るものについて、旅行（観光）商品としての販売を促進します。
- 観光資源としての質の向上を図るため、地域が行う祭りやイベントへ支援するほか、企業との連携により、特産品や食品等（観光商品）のブランド力向上に向けた取り組みを展開します。また、ニューツーリズム等多様なツアーの拠点を目指す地域を支援します。

目標指標

指 標	単位	計画策定時 (年度)	目標値		備 考
			R3	R8	
白山登山者数	人/年	49,997 (H27)	52,000	39,000	
宿泊客数	人/年	247,074 (H27)	259,000	223,000	
着地型旅行商品*の販売数	人/年	1,283 (H27)	1,700	2,000	
イベントの入込客数	人/年	309,623 (H27)	324,000	286,000	

*着地型旅行商品：旅行者を受け入れる地域で作られる旅行商品

6-1-3 広域的な観光の推進

現状・課題

■ 白山を囲む石川県、岐阜県、福井県の関係自治体で、環白山広域観光推進協議会を組織し、白山白川郷ホワイトロードを活用した観光ルートのPRに取り組んでいます。

また、本市周辺自治体では、北陸新幹線の延伸効果や小松空港からの入り込みを共有する地域であることから、加賀地域連携推進会議（オール加賀会議）を組織し、連携して加賀地域への誘客を図っています。

これらの取り組みを踏まえ、本市の魅力的な観光資源と城下町金沢、世界遺産白川郷、加賀温泉郷など周辺自治体を持つ観光資源を合わせ、広域的な滞在型観光による観光誘客に取り組む必要があります。

■ 平成27年3月の北陸新幹線（長野・金沢間）開業に伴い、石川県内の観光客数は急増しており、本市にもその波及効果が及んでいます。

今後は、北陸新幹線敦賀開業・大阪延伸を見据えた3大都市圏からの誘客が求められています。

■ 令和3年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催等により、外国人観光客の次の目的地としての注目が集まっています。

そのため、多言語での情報発信や観光施設・宿泊施設などの受け入れ環境の整備が求められています。

基本的方向

1. 環白山・加賀地域など広域観光の推進

環白山・加賀地域などの自治体と連携したイベントの開催等により、地域への誘客を促進します。

また、近隣自治体と連携した観光プランによる誘客を図るほか、周遊ルートの作成など旅行商品の開発を推進します。

2. 北陸新幹線延伸に向けた広域的な誘客の促進

北陸新幹線敦賀開業・大阪延伸を見据え、3大都市圏などからの誘客の促進を図ります。

3. 海外誘客の促進

感染症拡大収束後のインバウンド事業に備え、観光サインの多言語化や食文化の違いへの配慮など外国人の目線に立った受け入れ環境の整備を図ります。

また、本市の観光資源とその魅力について、多言語での情報発信を推進するとともに、受け入れ側のおもてなし力の向上など外国人が訪れやすく、滞在しやすい環境の整備を推進します。

さらに、小松空港・金沢港や北陸新幹線を利用する外国人観光客の誘客を推進します。



外国人観光客

施策の展開

基本的方向	施策の概要（★印は重点項目）	実施時期		実施主体
		前期	後期	
1. 環白山・加賀地域など 広域観光の推進	環白山広域観光推進協議会を活用した誘客活動の実施	→	→	市、関係自治体
	オール加賀会議と連携した広域観光事業の実施	→	→	市、関係自治体
	★近隣自治体との連携した事業の実施	→	→	市、関係自治体
2. 北陸新幹線延伸に向けた 広域的な誘客の促進	関東圏からの誘客の促進	→	→	市、観光連盟
	★関西圏・中部圏からの誘客の強化	→	→	市、観光連盟
3. 海外誘客の促進	★インバウンド事業の推進	→	→	市、観光連盟、 国際交流協会、事業者
	小松空港・金沢港や北陸新幹線を利用した誘客の促進	→	→	市、観光連盟

市民協働に向けて

- 外国人観光客受入のためのセミナーを宿泊・観光事業者などに対して広報し、参加を呼びかけます。
- 本市の魅力を多言語で紹介する市民ボランティアの育成に努めます。
- 市内の観光案内所では、JNTO認定外国人案内所としての機能の充実に努めます。

目標指標

指 標	単位	計画策定時 (年度)	目標値		備 考
			R3	R8	
白山白川郷 100kmウルトラマラソン 参加者数	人/年	1,759 (H28)	2,000	2,000	
白山白川郷ホワイトロード 利用者数	人/年	266,195 (H27)	282,000	192,000	



北陸新幹線



白山白川郷 100kmウルトラマラソン



6-2-1 品格と文化が感じられるまちの形成

現状・課題

■ 平成28年3月に制定した白山市文化振興条例には、文化は社会的な財産であり、文化の振興を市の政策の根幹のひとつに据えると明文化しました。

今後は、この条例の理念を体現するため、市民と行政の協働による幅広い文化活動の展開が求められています。

■ 本市は、江戸時代の女流俳人加賀の千代女をはじめ、七ヶ用水の父枝権兵衛、近代精神文化界に大きな影響を与えた暁烏敏、大正文学の奇才島田清次郎、日本刀制作の人間国宝隅谷正峯など数多くの偉人を輩出したほか、日本地質学発祥の地桑島化石壁発見者であるライン博士や日本洋画壇の巨匠中川一政などの文化人と深いつながりがあります。

今後は、ふるさとの文化に親しむ機会の充実を図り、先人が残してきた歴史的遺産や伝統文化を継承することが求められています。

■ 本市には、国・県・市指定・選定・登録文化財が431件（令和3年3月現在）あり、いずれも地域の長い歴史の中で生まれ、育まれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な財産です。

今後も、この文化財を保存して次世代に継承することはもとより、市民が文化財に親しむことができるよう積極的に公開・活用を行うことが一層求められています。

その一方で、過疎化・少子高齢化などを背景に、文化財の滅失や散逸等の防止が緊急の課題であり、未指定を含めた文化財をまちづくりに活かしつつ、地域社会総がかりで、その継承に取り組むことも必要となっています。

こうした文化財の総合的な保存・活用は、観光資源としてまちづくりや地域振興につながるため、その戦略的投資や質の向上がますます重要となっています。

基本的方向

1. 文化の創造と推進

音楽や芸術作品を鑑賞する機会の拡充や市民参加型の施策を展開することにより、幅広い文化芸術活動を推進します。

また、郷土に根ざした歴史文化や芸術文化を発信するため、文化施設の充実と活性化を図ります。

2. 文化の継承と発展

郷土への理解を深め、地域の文化を継承するため、ふるさとの文化に親しむ機会の充実を図ります。

また、有意な人材の輩出に寄与するため、本市の先達の功績を顕彰する事業の実施を推進します。

3. 歴史遺産や伝統文化の保護・継承

今後も重要な文化財の指定、選定を進めるとともに、指定文化財等の管理、修理、公開等に関する所有者や保存団体等への支援を継続します。

また、文化財の保存・公開のための施設の設置、運営に努め、文化財の学習活動、愛護活動、伝承活動など文化財保護のための活動の推進を図ります。

さらに、VR／ARといった先端技術や多言語解説の導入により、観光やまちづくりに文化財を活用することも目指します。

施策の展開

基本的方向	施策の概要（★印は重点項目）	実施時期		実施主体
		前期	後期	
1. 文化の創造と推進	★文化活動の推進	→	→	市、市民
	文化施設の充実と活性化	→	→	市
2. 文化の継承と発展	ふるさと文化の啓蒙継承	→	→	市、市民
	先達の顕彰事業の推進	→	→	市
3. 歴史遺産や伝統文化の保護・継承	文化財所有者・保存団体への支援	→	→	市
	民俗文化財の保存・継承	→	→	市民
	★史跡の整備と活用	→	→	市
	伝統的建造物群保存地区の整備と活用	→	→	市、市民
	文化財調査の推進と調査体制の充実	→	→	市
	化石調査の推進と調査体制の充実	→	→	市
	文化財愛護活動の推進	→	→	市

市民協働に向けて

- 郷土に根ざした歴史文化や芸術文化を発信するため、文化施設の展示内容やイベント等の質を向上させ、市民が身近に文化と接する機会を拡充します。さらに、市民による文化活動を動画配信することで、白山市の文化の活性化を図ります。
- 文化財の保存・活用に関する計画等の策定等にあたっては、市民の意見の反映に努めるとともに、文化財の調査研究や保存・活用にも関わることができる仕組みづくりを目指します。

目標指標

指 標	単位	計画策定時 (年度)	目標値		備 考
			R3	R8	
文化財市民講座・史跡巡り参加者数	人/年	172 (H27)	250	350	
音楽祭の総入場者数	人/年	5,648 (H27)	5,800	6,000	メインイベント、協賛事業の合計
現代美術展白山展の入場者数	人/年	1,537 (H27)	1,700	1,900	
暁烏敏賞の応募作品数	点	42 (H27)	50	60	
白山市ジュニア文芸賞の応募作品数	点	2,375 (H27)	2,400	2,500	
文化施設*の入館者数	人/年	104,344 (H27)	105,000	107,000	
市民工房うるわし・松任安楽庵の利用者数	人/年	147,612 (H27)	148,000	150,000	
白山薪能の入場者数	人/年	480 (H27)	490	500	
ライン賞の応募作品数	点	10 (H27)	20	25	

*文化施設：市内の文化施設7施設と白山恐竜パーク白峰



6-2-2 自然や歴史のブランド力の向上

現状・課題

■ 市内全域をエリアとする白山手取川ジオパークは、産学官民の各種団体を構成員とする「白山手取川ジオパーク推進協議会」が管理運営を担いジオパークによる地域づくりを推進しています。

白山手取川ジオパークは、平成23年9月に日本ジオパークに認定され、「水の旅」「石の旅」をテーマに地域資源の保護・保全、教育・研究、ツーリズム、ネットワークングを柱とした、市民の一体感の醸成と地域活性化に資する活動を展開しています。

令和2年10月にユネスコ世界ジオパークの国内候補地として、日本ジオパーク委員会の推薦が決定しており、ユネスコ世界ジオパーク認定を契機とし、さらなる活動の推進が必要です。

さらに、白山ユネスコエコパークは、平成28年3月、新たに「移行地域」を設定する拡張登録が承認され、環白山地域の4県7市村で構成する「白山ユネスコエコパーク協議会」によりユネスコエコパークが掲げる3つの機能（保護機能、学術的研究支援、経済と社会の発展）を果たすための活動をより一層推進することが必要となっています。

■ 本市ではこれまで、白山温泉郷やG1白山（白山菊酒）などの重要な観光資源のブランド化を進め、観光客の誘客に取り組んできました。

引き続き本市特有の自然や文化、歴史などの観光資源について、さらに魅力を発掘しつつ、ブランド力の向上を図り、他との差別化による誘客力の向上を目指すことが重要です。

基本的方向

1. 世界に向けた活動の推進

ジオパークをツールとして、自然資源や地域遺産の保護・保全をはじめ、それらに関する教育・科学の普及、ツーリズムの基盤づくり、ネットワーク強化などの取り組みを推進することにより、多くの人に地域の魅力を感じていただくとともに、持続可能な地域づくりの発展を目指します。

さらにユネスコ世界ジオパーク認定を契機とし、国内外での多様な連携や協力活動を積極的に進め、各取り組みの一層の推進を図ります。

また、ユネスコエコパークの継続的な普及啓発活動に努めるとともに、白山の自然や文化を伝える取り組みや活動への支援及び管理運営計画の実行を通して、環白山地域の連携を深め、生態系の保全と持続可能な利活用の調和（自然と人間社会の共生）に努めていきます。

2. 観光資源のブランド力の向上

自然や歴史遺産をはじめ、観光拠点のブランド化に向け、各種関係団体の連携を深め、地域ぐるみの活動を盛り上げるとともに、官民が連携して観光のPR活動を展開します。

特に、「恋人の聖地」「北前船」「ジオパーク」など、共通のテーマを持った全国の市町村との連携を図り誘客効果を高めます。

また、特産品や地元食品等を販売する事業者と連携し、観光拠点内での販売、観光PR会場での販売等を行い、ブランド力の向上を図ります。

施策の展開

基本的方向	施策の概要（★印は重点項目）	実施時期		実施主体
		前期	後期	
1. 世界に向けた活動の推進	★ 白山手取川ジオパークの活動の推進	→	→	市、市民、推進協議会
	★ 白山ユネスコエコパーク活動の推進	→	→	市、市民、協議会
2. 観光資源のブランド力の向上	特産品のブランド力の向上	→	→	市、市民
	★ 観光拠点のブランド力の向上	→	→	市、市民
	食文化のブランド力の向上	→	→	市、市民

市民協働に向けて

- 各種関係団体の連携を深め、地域ぐるみの活動を盛り上げ、国指定文化財数の増加や白山手取川ジオパーク、白山ユネスコエコパークの活動を推進し、自然や歴史遺産のブランド化を目指します。
- 特産品、地元食品等を販売する事業者と連携し、観光拠点内での販売、観光PR会場での販売等を行いブランド力の向上と本市の観光のPRを協働で進めます。

目標指標

指標	単位	計画策定時	目標値		備考
		(年度)	R3	R8	
国指定文化財の数	件	26 (H27)	27	28	累計
ジオパーク公認観光ガイド数	人	—	5	30	



白山手取川ジオパーク体験・実感ツアー



観光PR会場



6-3-1 国内・国際交流の推進と多文化共生の推進

現状・課題

- 本市は、国内1都市、海外5都市と親善友好都市（姉妹都市、友好都市等の総称）を提携し、地域特性を活かした交流を行ってきました。
今後は、市民が親善友好都市をより身近に感じることができるよう、交流内容の充実を図る必要があります。
- 親善友好都市のうち、海外の3都市とは中高生のホームステイ交流事業を通して、青少年のグローバル人材の育成を図っています。
また、これら親善友好都市やその他海外からの来訪者、出身者に対し、本市の文化や歴史、自然などの魅力を積極的に発信しています。
しかし、親善友好都市との交流プログラムに参加・参画する市民に限られているため、今後は、新たな交流事業を展開し、交流のすそ野を拡大する必要があります。
- 市内の外国人住民の増加に伴い、外国人住民が住みやすい地域づくり、多文化共生の重要性はますます高まっています。
また、海外からの交流人口が拡大すると予想される中、外国人に優しいまちづくりに積極的に取り組む必要があります。
- グローバル社会や多文化共生社会の実現に向けては、白山市国際交流協会の「国際交流サロン」が拠点施設として重要であり、さらなる支援や体制強化が必要です。
また、活動のほとんどをボランティアに依存しており、ボランティアの高齢化等に伴う担い手確保が大きな課題となっています。
- 本市の出身者や元在住者は全国に広がっており、特に首都圏や関西圏には出身者による郷土会があるなど、本市にゆかりのある方々や関心のある方々が相当数存在すると思われます。
このような方々をつながりを持ち、郷土愛を醸成するとともに、本市の交流人口や関係人口を増やしていく必要があります。

基本的方向

1. 友好交流の推進

国内外の6つの親善友好都市をはじめ、世界の各地域との交流やネットワークを活用し、友好交流を推進するとともに、本市の文化や魅力を広く海外へ発信します。

2. グローバル化に対応する人材育成と活用

親善友好都市との青少年ホームステイ交流の推進や海外への青少年の派遣、国際協力に携わる若者を支援し、地域の国際化と多文化共生を担う人材育成を促進します。

また、市民対象の国際理解や異文化理解のための講座や外国人と交流する機会を通して、市民のグローバル化へ対応した意識の涵養を図り、その人材を活用します。

3. 多文化共生の推進

外国人住民の日常生活にかかる様々な悩みや心配事に関する各種相談や日本語教室などのコミュニケーション支援を充実します。

また、外国人住民の地域参画を推進するなど、令和2年10月に策定した「白山市多文化共生のまちづくり推進指針」に基づき、多文化共生社会を実現するための取り組みを進めます。

4. 国際交流組織の機能充実と連携強化

本市の国際交流の中核を担う白山市国際交流協会への支援を行うとともに、同協会とその他の民間国際交流団体との連携強化を促進します。

また、幅広いボランティア人材の登録・育成、活用促進により、多様な交流事業を展開します。

5. 郷土会活動の支援や新たな交流会の開催

本市の出身者や元在住者、ゆかりのある方、関心のある方等に対し、郷土会の活動支援や首都圏における新たな交流会の開催、ふるさと納税の促進等をとおして、地域と継続的なつながりを持つ機会や情報の提供を行い、連携強化を図ります。

施策の展開

基本的方向	施策の概要（★印は重点項目）	実施時期		実施主体
		前期	後期	
1. 友好交流の推進	親善友好都市との友好推進	→	→	市、国際交流協会
	友好交流地域との交流促進	→	→	国際交流協会、関係団体
	★ 海外への情報発信	→	→	市、国際交流協会
2. グローバル化に対応する人材育成と活用	親善友好都市との青少年ホームステイ交流	→	→	市、国際交流協会
	青少年の海外派遣促進	→	→	ロータリークラブ
	国際協力の促進	→	→	JICA
	★ 市民のグローバル化への対応	→	→	市、国際交流協会
	国際交流人材の活用	→	→	国際交流協会
3. 多文化共生の推進	外国人住民の相談・コミュニケーション支援	→	→	市、国際交流協会
	★ 外国人住民の地域参画の推進	→	→	市、国際交流協会
	多文化共生への理解促進	→	→	市、市民、国際交流協会
4. 国際交流組織の機能充実と連携強化	★ 国際交流協会の体制強化	→	→	市、国際交流協会
	協会ボランティアの育成と拡大	→	→	市、国際交流協会
	多様な交流事業の実施	→	→	国際交流協会
	民間国際交流団体との情報交換と連携	→	→	市、国際交流協会
5. 郷土会活動の支援や新たな交流会の開催	郷土会活動の推進	→	→	市、各郷土会
	★ 新たな交流会の開催	→	→	市、関係団体

市民協働に向けて

- 白山市国際交流協会への市民参画の機会を充実し、市民への情報提供及び事業の協働を図っていきます。

目標指標

指 標	単位	計画策定時	目標値		備 考
		(年度)	R3	R8	
国内・国際交流人口	人/年	950 (H27)	970	1,000	親善友好都市等との往来数、 ジャパンテント等国際交流 人口
白山市国際交流協会会員数	人・団体/年	406 (H27)	420	430	普通会員、特別会員の合計
白山市国際交流サロン利用人数	人	88,233 (H27)	125,000	156,000	累計

